

平成23年度第3回 八丈島一般廃棄物管理型最終処分場 運営協議会 議事要録

日時：平成23年12月21日 午後1時30分～4時

場所：八丈町末吉地域公会堂

出席者：協議会委員（7名）

<議事>

（1）原水調整槽の目的と構造について

事務局から資料1-1～1-4に基づき、原水調整槽の構造等について説明した。

- ① 原水調整槽は、1)流入量の調整 2)流入水質の均質化 3)一定量ずつ処理するための貯留 といった役割がある。
- ② 供用開始後のメンテナンス等を考慮して、3槽に分かれた構造となっている。
- ③ 水張り試験の後、内部を清掃して防食塗装を施す。その後、設備（散気装置）を入れ、完成となる。散気装置は、空気を送り込む設備で、1)水の腐食を防止する 2)槽内の水を混ぜて均質化する といった役割がある。

委員からの質問に対して、一部事務組合から回答した。

Q. 槽の清掃はどのように行うか。

A. 3つの槽のうち、通常使うのは1槽で、残りの2槽は予備の槽である。清掃は、濁水期に行い、空いている槽を清掃後、清掃済の槽に原水を送水して、順次行ってゆく。また清掃作業も1週間といった長い時間がかかるものではない。

（2）原水調整槽の施工監理について

事務局から資料2、及び当日配布資料に基づき、原水調整槽の施工方法及び本日の水張り試験について説明した。

- ① 原水調整槽は、基礎工事、鉄筋組立、コンクリート打設、水張り試験、防食・防水塗装、埋戻し といった順序で施工される。
- ② コンクリートには、硬化時にごくわずかに収縮する性質がある。そのため、高い水密性が求められる施設においてコンクリートにクラックが見つかった場合は、補修を行う。今回は「高圧止水工法」でクラックの補修を行った。
- ③ 本日の原水調整槽の水張り試験は、第三原水調整槽にて行い、水位は設計上の満水位

+10cm としている。また、クラックの補修を協議会の前日に行ったため、48 時間後の状況については次回の協議会にて報告する。

委員からの質問に対して、一部事務組合から回答した。

Q. 高圧止水法とは。

A. クラックの左右から高圧で止水剤を注入し、止水する方法である。高圧で止水剤を注入することによりクラックから止水剤が流出してくるので、止水剤が確実にクラックに浸透したことが確認できる。

(3) 処分場建設現場確認

処分場建設現場に移動し、第三原水調整槽の水張り試験に立ち会った。水位の低下がないこと、及びクラック補修部を含む外壁に漏れ等がないことを、参加した委員全員で確認した。

(4) 確認事項の整理

再び末吉地域公会堂へ戻り、資料 2 中の「八丈島一般廃棄物管理型最終処分場建設工事（浸出水処理施設）品質管理」シートに各自で記入し、本日の第三原水調整槽の水張り試験の確認の結果、24 時間後の水位低下はないこと、及び外観で漏水がないことを、委員全員で再度確認した。事務局から、次回の協議会は 2 月上旬を予定している旨伝えた。

その他として、一部事務組合から二点報告した。

1. 供用開始後の管理運営業者の募集について報告する。処分場は 24 年 10 月に完成し、その後埋立が始まるが、その管理運営業者の募集について、24 年 1 月から島内事業者を対象に情報提供を始める。
2. 前回の協議会で質問のあった停電時の対応について報告する。停電が起こった場合、専用に設けた自家発電機により原水ピットへの流入口が遮断される。また、水処理施設のデータ類は、専用のバッテリーにより安全に保存される。水処理施設内のポンプ類は、停電により送水されなくなる。

以上